



「全国の仲間へ訴えよ」

二月一日、第三三回千葉地本臨時大会は代議員、傍聴者約三〇〇名の結集をもって圧倒的成功をかちとりました。全国の闘う仲間達にこの大会で確認された千葉地本の考え方を明らかにし、共に闘うことを訴えます。われわれは水上における第三三回全国大会以降の動労運動は動労内革マルとそれに追いつく一部反動分子によって変質したと考えています。千葉地本全組合員は一〇年間にわたって、暴力に屈せず「排除の論理」と闘ってきました。動労全体の運動を考えればこそ、自重に自重を重ね、怒りを抑え、耐えがたきを耐えて「自己批判書」を提出したこともありました。しかし、いまやこの一〇年間の全ての怒りをとき放ち動労運動の変質を正すべく闘うときがきたと判断せざるを得ません。

「水本事件の真相を究明する会」から脱会し、動労のセクト的引きまわしに断を下そう!

動労の変質の第一の指標は「水本運動」の持ち込みであります。

「単なる賛助団体」であつたはずの「水本運動」は、いまや多額の組合費を投入しつつ「動労型労働運動」の中軸に据えられようとしています(東・西ブロック組織部長会議方針書)。「水本運動」はセクト間抗争の一方の側(革マル派)へ動労をひきずり込み、結果として動労を孤立化させる以外のなにものでもないと言わなければなりません。

反対同盟との連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を勝利しよう!

動労運動変質の第二の指標は三里塚闘争への敵対方針です。

この間、第三三回定期全国大会方針にもとづき、動労が千葉地本を先頭に闘い抜き、右傾化する日本労働運動の現状に警鐘を乱打し、戦闘的再生の突破口をきりひらいてきた労農連帯―三里塚・ジェット闘争の旗を自らぶちこわすのか否か、動労が権力の尖兵に立つのか、それとも苦闘する人民の側に立つのか。まさに動労は歴史的選択の岐路に立っており、千葉地本は、はっきりと闘う人民の側に立つべきことを主張します。

「貨物安定宣言」を廃棄し、せまりく大合理化攻撃に対決しよう!

動労の変質の第三の指標は「貨物安定宣言」に見られる反合闘争の放棄であります。「五三・一〇」の敗北は、われわれの前に明らかであり、この敗北はまやかしの「経済学」をもつてする「削減・合理化論」による「安定宣言」路線に全ての責任があると言つても過言ではありません。

さらに本格的な合理化攻撃が貨物部門だけに止まらず、五五・一〇〜五七・一〇へ向けてローカル線廃止等も含めてかけられようとしているとき、

「安定宣言」路線は組合員の利益を当局・資本に売り渡す以外のなにものでもありません。

ファッショ的暴力支配糾弾!

動労の変質の第四の指標は津山大会で明らかになったファッショ的暴力支配の問題であります。

四〇%強の代議員による修正動議提出↓強行採決↓反対派に対する暴力的脅迫という事態は、その後規約・規則―機関運営ルール無視という形でエスカレートしています。この暴力支配に対する怨嗟と怒りの声は、今や動労四万七千組合員の共通の叫びとなっています。

以上見てきたように「水本謀略」「三里塚敵対」「貨物安定宣言」に端的に示される路線上の右翼化―産報化と排除の論理に基づく暴力支配は表裏一体のものとして、四万七千組合員が幾多の苦闘の中から血と汗をもって築いてきた動労の戦闘性・階級性を内部から強引に破壊するものとなっています。

一切の反動を粉碎し、動労の戦闘的伝統を継承・発展させよう!

われわれ千葉地本は、この間あらゆる誹謗・中傷、どう喝、テロ・リンチ、統制処分策動にも屈せず、声を大にして主張し、節を曲げず断固闘い抜いてきました。

労働組合にあって最も規約・規則を順守しなければならぬ中央本部が、そのことを全く顧慮せず、あきらかに誤った路線を押しつけようとするとき、職場・生産点からの闘いによってそれを正そうとすることは労働者の当然の権利であると考えます。

激動の八〇年代を前に、労働者の階級的・本質的利益を守り抜く動労の戦闘的伝統を再生させることが急務であります。

全国、全組合員の皆さん!

動労の変質と私物化を正し、階級的民主主義と戦闘的統一と団結をかちとるため、今こそ、総決起しようではありませんか。

全国の仲間たちに訴える!

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!